

情報公開文書

作成日 2020年5月22日

改訂日 2020年9月9日 (Ver.2.2)

「脊椎外科医診療放射線被曝とアウトカムとの関連性：最小侵襲脊椎治療学会調査研究」は、最小侵襲脊椎治療（MIST）学会理事会の審議承認を得て、また「京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部付属病院 医の倫理委員会」の審査を受け研究機関の長の承認を得て、研究責任者（京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 医療疫学分野 准教授 山本 洋介）の管轄のもとに行われます。

医療用放射線の使用が増加しつつあり、とりわけ脊椎外科領域においては、低侵襲側方固定術や経皮的椎弓根スクリュー設置の普及などにより、術者をはじめ医療従事者の放射線被曝機会が増えています。医療従事者への長期的な低線量被曝の影響には依然として不明な点が多く、とくに術者における白内障、甲状腺疾患および各種癌の発生といった健康被害が懸念されます。近年術者の被曝防護への関心が高まっている反面、その被曝防護意識は高いとはいえません。その理由は被曝による直接的な影響が可視化することが困難であること、影響が顕在化するまでに長期間を要することなどが考えられます。そのような状況下で、脊椎外科医の被曝の現状、被曝防護意識や被曝による影響を調査することには、被曝防護への関心を高め、被曝防護の普及を推進するうえで大きな意義があると考えます。

本研究には研究参加を受諾していただいた皆さまのデータが用いられます。質問への回答以上に、新たにご負担いただくものではありません。研究の結果は、個人が特定できない形で集計し統計学的処理を行います。学会や論文発表ではその統計学的処理をした結果を発表します。対象者のプライバシーは十分に尊重され、特定される個人の情報が外部に公表されることは一切ありません。皆さまにおかれましては、データ利用の目的と趣旨をご理解いただくよう宜しくお願い申し上げます。なお、回答後も研究参加への撤回は可能です。その場合は速やかにデータを削除し利用を停止いたします。

本研究に対してご質問のある方は下記の連絡先までご連絡ください。

<本研究の概要>

- ① 研究名：脊椎外科医診療放射線被曝とアウトカムとの関連性：最小侵襲脊椎治療学会調査研究
- ② 対象者：学会員の皆さま
- ③ 研究実施期間：倫理委員会承認日から3年間
- ④ 対象となる情報の取得期間：調査実施時点
- ⑤ 収集する情報：被ばく機会、被ばく防護意識や対策、子の年齢と性別、被ばく有害事象など
- ⑥ 研究目的の概要：放射線被曝機会とアウトカムの関連性の検証
被曝防護意識や被曝防護対策の現状の記述
- ⑦ 研究方法の概要：質問への回答結果をもとに研究します。

- ⑧ 個人情報保護の仕組み：個人情報 は全て削除され、分析においては皆さまの個人を特定しうる情報はいかなる形でも取り扱いません。
- ⑨ 研究資金・利益相反：研究資金は民間財団の研究助成への応募および運営交付金を充当します。いかなる利益相反もありません。利益相反については、京都大学利益相反ポリシー、京都大学利益相反マネジメント規程に従い、京都大学臨床研究利益相反審査委員会において適切に審査・管理しています。

<研究体制>

京都大学

研究代表者	京都大学大学院 医療疫学教室 准教授	山本洋介
主たる研究者	京都大学大学院 医療疫学教室 博士後期課程 北須磨病院脊椎腰痛センター	土方保和
共同研究者	京都大学病院臨床研究教育・研修部 特定助教 京都大学大学院 医療疫学教室 博士後期課程	紙谷司 板谷崇央

MIST 学会

研究代表者	国際医療福祉大学整形外科 主任教授	石井賢
共同研究者	関西医科大学総合医療センター整形外科 准教授 大阪市立大学大学院医学研究科臨床医学専攻整形外科 講師 国際医療福祉大学整形外科 准教授 北里大学医学部整形外科 講師 佐賀大学医学部整形外科 講師 東北医科薬科大学整形外科 准教授	小谷善久 鈴木亨暢 船尾陽生 宮城正行 森本忠嗣 菅野晴夫

* 収集した情報の管理責任は主たる研究者である土方が負います。

<本研究に関するお問い合わせ先>

京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系専攻 医療疫学分野

研究担当者 土方 保和

電話 075-753-4646

E-mail hijikata.yasukazu.45z@st.kyoto-u.ac.jp

京都大学 医学研究科 総務企画課 研究推進掛

電話 075-753-9301 (E-mail)

E-mail kikaku06@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp